

Y20a X線天文衛星「ひとみ」(ASTRO-H)の危機対応広報とその結果

矢部あずさ, 生田ちさと (JAXA 宇宙科学研究所)

X線天文衛星「ひとみ」(ASTRO-H)に関する広報活動は2つに分けることができる。1つは、主に打上げ前に行っていた、プロジェクトの認知度向上及び、X線天文学・衛星の科学目的についての理解を深めてもらうための活動である。もう1つは、軌道上で衛星に異常事象が発生した後、組織の信用・信頼へのダメージを最低限に抑えるための危機対応である。

ASTRO-Hは2016年2月17日に種子島宇宙センターから打ち上げられた、日本で6番目のX線天文衛星である。しかし、打上げから約1ヶ月後の3月26日に通信不通となり、4月28日には運用断念(衛星の喪失)に至った。異常事象発生後は継続的に記者会見を開催し、ASTRO-Hの状況や、推定されるメカニズムについての情報提供を行った。厳しい批判に曝されることは避けられない事態ではあったが、会見内容や報道を受けてのソーシャルメディア上(Twitter)での反応は中立的なものが多かった。

本発表では、ASTRO-Hの異常発生後を事例に、組織の危機とその対応体制、記者会見・プレスリリース、個別取材・問い合わせへの対応の内容について紹介する。